

と言った。

貧乏ゆすりをはじめとする無意識の体の動きは、内なる自分の具体的発動である、と言っている。仙骨のバイブレーションを応援し、同調しようとする動きなのである。自動操法といって、世間には意図的にこういう動きを作り出して病気を治そうとする方法があるくらいだ。だから、貧乏ゆすりなどは、多少行儀が悪くても体の要求だと思って、止めてはいけなものである。

それにしても、彼女の場合、よく動く。動くままにしておいたら、部屋の中をころころ、ころころ転がり回り、朝の四時くらいまで止まらないときもあったという。

また、手の指を、一本一本つかんで手の甲のほうへ折り曲げるといふ動作も出て、それが、すごい力なのだという。これなどは意識的動作なのではないか、と思われるだろうが、彼女の意志に関係なく現われるのだ。

「病院のリハビリでも、こんなにていねいしてくれませんかよ」

と、彼女自身も言っているくらい、体が勝手に動く。

最初は寝ているときの動きが中心だったのが、最近ではでんぐり返ったり、立ち上がったたりする動きが出てきたというから、体の中で動きをうながしている部分が変わってきているのだろう。

この動きを家族は怖がって、きつと何か悪いっているんだからと折^{たま}禱師のところへ連れて行こうとしたことがある。けれども、彼女は霊的なものと結びつけることをせず、家族のいないところで、思い切り体を動かしている。

彼女はまた治良継統中だが、この動きがとれるころには、そうとう体も回復しているはずである。

この話で、皆さんに知ってほしかったのは、逆行というものは、体の要求に応じてじつにさまざまな形で出ること。そして、体自身が自分に何が必要であるかを知っていて、自らそれを実現することができるということだ。

PART 3

●歯医者があなたの歯を破壊している

歯の病気を作り出しているのは歯医者だ

歯というものに特別な一節をもうけるのは、歯というものが人間の肉体の重要な一部であるにもかかわらず、たいへん軽くみられ、粗雑に扱われているからだ。

「歯を大事にしない」と、私がここで言うのと、「そのとおり」と、歯医者は喜ぶかもしれないが、じつは、私が言おうとしていることは、歯科医の主張と正反對のことである。つまり、「歯医者にまかせていたら、歯も体もボロボロになってしまう」ということである。

たとえば、親しらずという歯があると、歯医者は患者に、これは将来、歯並びを悪くする、ひいては虫歯を作るもとだから、今のうちに抜いておきなさい、と脅しをかける。

ところが、これが大嘘である。私には、実際に親しらずがあるが、歯並びはきれいなものだ。親しらずを抜かなくても歯は健康に育つのである。

それは、私がつねに、人間の体は地球上でもっとも完全な存在である、と言っているのとおりなのであって、わざわざ力づくで抜かなければならないようなものが、生えるはずがないのである。

歯を抜くと目が悪くなる

では、親しらずを抜くとうなるか。

歯は神経組織とつながっているものであるから、目を悪くする人が多い。心あたりのある人がいるだろう。歯を抜いてから、視力が落ちた、乱視になったという人は非常に多い。これは、歴然たる事実でありながら、まだその因果関係を認められていない。

私のパシビティで歯を抜いた直後に目が悪くなり、頭痛が始まった人がいる。この人は、頭痛も目を悪くしたのも歯を抜いたせいだ、とはつきりわかっていたが、歯医者に رفتっても眼科に行っても、とりあつてもえなかったと言っていた。

こういう医者は、ただ大学で教えられたことをうのみにして、人の体をいじっているだけなので、この簡単な因果関係が認められないのである。

人為的に歯を抜く、ということの野蛮さが早く認識されなくてはいけない。

親しらずを抜いた悪影響はそれだけではない。歯というものは、石でできたアーチ型の橋のように、お互いにつながり支え合っているのである。

だから、抜こうとしても容易に抜けないのだ。それを力づくで抜くということは、歯全体のガッチリした構造をガタガタにしてしまう。

そして、それまで健康な歯を支えていた構造が崩れ、グラグラするという現象が起きてくる。これこそ、歯医者の思うつぼである。ゆるんだ歯をまた、抜くことができるからである。くさびを抜かれた歯はどんどんゆるんでいき、しまいには義歯を入れざるをえないまでに痛めつけられる。

これはもちろん、親しらずだけの現象ではなく、虫歯でも同じことだ。こうなると、歯は歯医者に通うほど悪くなる。歯医者というものは、マッチポンプで金もう



歯石は歯の重要な補完物。だから、むやみにとってはいけない

それでは、アフリカの原住民の歯はどうか、彼らは歯を磨かないだろう、と私はふと思いついて聞いてみた。すると彼は、「それが不思議なことに、全員たしかに歯を磨かず、歯石だらけなのに、虫歯は一本もないという調査結果があるんです」と答えた。

このことは、まったく不思議でもなんでもない。歯石というものは、歯槽膿漏の原因ではなく、歯の重要な補完物であるということだ。

さらに言えば、歯科医のいない国では、みんな歯が丈夫で健康だということである。これだけあからさまな批判をしても、歯科医は、きちんとした反証をあげることができないはずである。

けをしていると言わざるをえない。

歯石をとってはいけない！

同じ理由で、歯石をとることもよくない。

歯石というのは、歯がグラグラするときに、それを支えようとして生じるものである。ところが、歯科医はこれが歯槽膿漏の原因だと言って、機械で削りとっている。

これによって、せっかく安定していた歯はまたグラグラしただすのである。

歯のいい人に、歯石はない。それは、歯石が必要ではないからだ。歯の悪い人に歯石があるのは、それが要だからだ。

ところが、歯科医はそれを取り違えて、歯石が歯槽膿漏の原因だと言っているのである。間違えた結果、患者の歯を破壊し、それでさらに多くの患者を作り出しているのだから幸福な商売である。だまされる患者こそいい面の皮だ。

MRTの会員にも歯科医は何人もいる。あるとき、その一人とこの問題で話しあったことがある。

私が「歯石は歯槽膿漏の原因ではないだろう」と言っても、彼は「しかし、学会ではそういうことになっているから」といって納得しない。

それは、私が「人間は完全な存在であり、人間の中にむだなものは何一つない」という法則からこの結論を導き出したからである。

歯科医の皆さんには、患者を百人でも千人でも追跡調査をしてもらって、自らの仕事が本当に患者の歯のためになっているかどうか、一日も早く検証していただきたいものだ。

歯の矯正は即刻やめるべきだ！

歯の矯正の有害性について、一つの体験談をあげておこう。

歯科医は子供の患者が来ると、歯並びが悪い、とか、あごの形が悪い、とかなんくせをつけて「このままほうっておけば、将来、お子さんの歯はボロボロになってしまう」と親に脅しかける。また、親もそのとおりだと思ってしまう。しかし、それにだまされてはならない。以下のパシビティの体験談を読めば、歯科医がいかに子供の将来を破壊しかねない危険なことを勧めているかわかるだろう。（＊ 患者さんのことをMRITではパシビティと呼ぶ）

顎関節と虫歯に相関関係があるのは事実だが、前歯でも触れたように、顎関節を調整するためには、顎関節自体をいじるのではなく、あくまで仙骨の調整によらなければならない。

顎関節を動かそうとすれば、不自然に強い力と、長い月日が必要である。そして、仙骨は、その不自然な力にもバランスをとろうとして動く。そしてそれが全身にさまざまな影響を生み

出す。しかし、仙骨を調整すれば、すこしも不自然な力を用いることなく、あごは本人にもっともよい位置へとすんなりと動くのである。

パシビティ・レポートから

激しい逆行とともに、矯正した顎形が変わる

あごの乱暴な矯正は成績にも影響した

娘は二四六〇グラムの未熟児で生まれました。おなかにはきちんと十か月いたのですが、私の腎臓が弱く、妊娠中毒であつたために、栄養が行きわたらなかつたのです。

しかし、その後は順調でした。普通、あかんぼうは一日三五グラムぐらいずつ体重が増えるのですが、娘は五〇グラムずつ増え続け、最初はガリガリだったのが、元気に育ちました。

元気がなくなつたのは、今ふりかえれば、小学六年のときにあごの矯正をしてからです。

歯医者に行つて、普通の人より下あごの部分が短いようだと、娘の顔かたちのことを言われたのです。普通の人は、額、鼻、口からあご、と三分割すると、だいたい均等になるらしいのですが、娘の場合、九ミリほど、下三分の一が短いのです。

歯医者さんは、何十万とお金のかかることだからと、むりには勧めない口ぶりでしたが、帰

って夫に相談すると、女の子だから顔はたいせつだ、ということになり、矯正をお願いしたのです。

娘のあごが小さいというのは、上あごがすこし前に出ている、その分、下のあごが上に上がってしまうということなのです。

ですから、矯正は上あごを固定しておいて、下あごの発達を待つという、今思えば乱暴なやり方でした。そのため、この矯正は中学三年までの四年間かかりました。

ところが、この矯正を始めてから、娘の体調がおかしくなりだしたのです。

それまで、元気に外で遊ぶことが多かった娘が、だんだん外に出なくなり、学校も体の具合が悪くて遅刻したり、早退してきたりするようにになりました。

それでも、高校は進学校に進み、二年までは数学が学年で二番になるなど、成績優秀だったのですが、三年になったときは最悪でした。授業中に隣の子と二人で居眠りをしているというのです。

隣の子は、男の子で麻雀ばかりしていたようなのですが、娘はそういうこともありません。教員室では、あの子は夜、アルバイトでもしているのではないかと噂されていたそうです。

また、私たち親とも、そんなこともあつて確執がありました。

中学のときから、進学教室に通わせたり、エリート教育をしてきましたが、それに激しく反

発するようになったのです。

体の具合も、どんどん悪化していきました。

肩こり、腰痛、背痛、眼痛、不眠症、生理痛、生理不順、冷え症、痔、精神不安定と、症状を数えあげればきりがありません。

高校を出て就職したのですが、体調が悪くて、一年勤めては辞め、一年勤めては辞めで、しかたがないから、父親のもとでアルバイトをさせるようにしましたが、それすらもむりなような体の具合になってきたのです。

死ぬほどの激痛も体の反応だった

内海先生のMRTと出会ったのは、そんなときです。

本を読んでいろいろ思い当たることもあり、MRT良法を受けさせると、一回目から逆行現象がきました。

左足がつるようになり、強い眠気に襲われて、一日十四時間から十六時間も眠るような日が続きました。

内海先生は、娘を初めて診たときから、

「この人の仙骨は非常に繊細です。しかも、非常に未熟です。今までいろいろな治療をされ

たことでしようが、いっさい効かなかったでしょう。仙骨を調整することによって、娘さんは初めて消（き）えるのです」

と、はつきりおっしゃいました。

そう言われて、内海先生の本を読み返すうちに、歯の矯正のことに思い当たり、初めて、これはたいへんなことをしたと悔（く）やんだのです。

二回目の良法では、娘はすさまじい激痛を感じ、帰（か）りにはあのゆるやかな目黒の権之助坂を歩くのも死ぬ（し）んだったようです。

「帰（か）り道は体が痛み、意識はもうろう、だるさと重さでとても長く感じました。この日をさかいに腰痛、頭痛、背中の痛み、全身に湿疹のかゆさ、精神不安定、私自身、今までかかえてきたいろいろな病（び）気とされるものが日増しに出てきて、MRTに行くのも無理になりました」と、本人がメモしております。

さらに、このあと、逆行で起き上がれないくらいひどい状態になったのです。本人も、MRT良法は無痛だいいながら、死ぬほどの激痛を与えたといつて、絶対に行かないと言（い）っていたくらいです。

ですが私は、これだけの逆行が出るということは、効果もそれだけ大きいのだと信じ、娘に手をつけて頼（たの）んで、MRT本部に連れて行きました。

娘が痛みのことを言うと、内海先生は、

「私はあなただけに特別何かをしたわけではありません。みんなと同じことをしただけです。痛いのはあなた自身の反応なのに、それを治良の痛みと勘違（かんち）いしているのです」という意味のことを言（い）われました。

たしかに、良法は私も受けていますが、なんの痛みもありません。逆行があまりにもすぐに、強烈に現（あら）われたので、娘は良法そのものが痛いのだ、と勘違（かんち）いしたのでした。

その後も、生理痛や三九度の高熱など、逆行は続きました。また目のあたりが熱くなり、だるくて目があけていられなくなる、などの特徴的な症状も出ました。

また、一度ひどい生理痛のあったあと、生理は三か月とまりました。生理を起こすエネルギーさえ、体の回復のために使われているのでしよう。

体が子供のころにいったん戻（かえ）って、やり直している

しかし、いちばん驚いたのは、あごの形が突然もとに戻（かえ）ってしまったことです。

良法を十回ほど受けたある日、娘はやはり逆行で寝込んでいたのですが、目をさますと、口の中が狭（せま）いと感じると言（い）います。

それで、起きだして鏡を見ると、下あごがぐっと中に入り、あごの形がもとに戻（かえ）っていたの

です。

娘は、熱もあり、もうろうとしていましたから、いつそうなったかわからないと言いますが、とにかく、一晩か二晩で、三年かけて矯正し、その後十年も続いた顎形が変わってしまったのです。

それは、もしもMRTがなければ、一生変わらなかったものに違いないのです。

娘の逆行現象の激しさも、このような大きな変化の準備だったのでしよう。

その後、娘は舌の扱いに困ると言い出しました。ただでさえ狭い口の中が、いきなりまた狭くなってしまったので、今までの舌の使い方のくせで動かそうとすると支障があるのです。

その影響でしようか、口の中に、口内炎や水ぶくれが十か所以上もできたこともあり、それ以降、娘は、舌たらず気味だった発音が明瞭になってきました。以前は、フジワラですと電話で言っても、最初のフが聞きとりにくく、聞き返されることが多かったのですが、最近はそのほか、嗜好にも変化がありました。

それまでは、甘いものはなんでも好きでしたが、アンコをうけつけなくなりました。今は、子供の好きなプリンとか、ゼリーのようなものもいいようです。

また、若い娘ですから、ごはんは太るといって、ふだんあまり食べなかったのですが、今は

おいしくてしかたないらしく、三度三度ごはんでもいい、と言っています。

また、お酒をうけつけなくなりました。かつては、友達といっしょによく外で飲んでいたのですが、気持ち悪くなって吐いたりして、今は飲みに行くこともなくなりました。

私は、この変化を、全体に体が子供のころにいったん戻ってやり直しをしているのだ、と解釈しています。MRTを続けていれば、また昔のように元気な娘に戻ってくれるのではないかと大いに期待しているのです。

逆行現象は、月の満ち欠けの影響を受ける

それから、娘の逆行現象には、顕著に月の影響があるようです。MRTの理論では、満月には肉体的、あるいは顕在的な逆行、新月には精神的な、あるいは潜在的な逆行が出るということになっていますが、娘の場合、まさにそのとおりで、満月と新月を挟んだ一週間と、治良直後がひどいのです。ほとんど、いつもということですが、娘ははつきりと違いを感じています。満月期の逆行は、肉体的な痛み、かゆみなどの症状が全身に出ますが、体の表面的な痛みで、心もちは明るいのだそうです。

ところが、新月期には、精神的に圧迫され、何もかもめんどくさい、という気持ちが後頭部に張りついたようで、重い鉄仮面でもかぶらされているようだ、と言います。また、望遠鏡を

さかさまにのぞいたように、現実感がなく、自分などどうなってもいい、と感じるようです。

痛みも、満月期の痛みは、ふだんの肉体的な次元の痛みの延長ですが、新月には、仙骨から上につきあげられるような痛み、眉間の奥の蝶形骨のあたりからの頭痛や、その他の痛みなど、この世のものとは思われない、内側から発する痛みだと言っています。

私から見ても、娘は、新月期にはたいへん不機嫌で、何をするにもおつくうそうで、私の言うことなど聞いてくれません。

先日は、それが、突然、「お母さん、終わりました」と言い出したので驚きました。逆行がひとくぎりついたというのです。

ちょうど、新月から三日目で、その影響が切れるころでしたので、月の影響はたしかにある、と思い当たったのです。

最後に、下の娘と私自身の変化のことを、お話しします。

下の娘も良法を受けているのですが、彼女の場合、深刻だった生理痛が嘘のようになくなりました。

彼女は、生理が重く、生理の一週間前から、眠気や吐き気を感じたりして、前日くらいになると、寒気や痛みを感じ、生理が始まってから十年間、生理日には学校を休んで寝込まない日はありませんでした。

ところが、MRTに通い始めて二度目の生理は、なんの前兆も痛みもなく、訪れたのです。

当日は行事があり、娘は二時間も立ちっぱなしでいたそうですが、なんともありませんでした。あれほど悩んだ生理痛が嘘のようになくなってしまったのです。

MRTの偉力には、脱帽するしかありません。

私の場合は、周囲の人間に、「鼻筋がまっすぐになってきた」と驚かれています。私は鼻の骨が湾曲しているのですが、ひとが見てもわかるほどに、それが消ってききました。

結局、娘たちの仙骨の歪みも、もとは私にあり、それが印刷されるようにして、おなかを痛めた子供たちに伝わったのかもしれない、と一家でMRT良法を受けながら、最近はやっています。

(MRT本部)

PART 4

●健康という家の土台には「骨」組みが重要だ

骨は、魂の一つの表現のしかただ

私はかつて設計の仕事をしていた関係から、大震災にも倒れずに残った五重の塔の地下の構